

甲斐駒ヶ岳冬期登山 (2011/2/5-2/6)

CHR48号によると、昭和41年の夏合宿は柳又谷を中心とした固定合宿の後、岡崎L、笹川、石橋、青景の4名は白馬岳、唐松岳を經由し八方尾根より一旦下山し、戸台から南アルプスに再び入山し、甲斐駒ヶ岳、仙丈岳、北岳、間ノ岳、農鳥岳を縦走して奈良田に下山している。また、縦走の途中、不帰ノ剣と北岳バットレスで岩登りをしている。

甲斐駒ヶ岳には、戸台から入山した翌日の昭和41年8月5日に北沢峠のテントサイトから登頂しているが、驚くことに、若さに任せて9時間半で甲斐駒ヶ岳と仙丈岳の二つピークを踏んで帰幕している。因みに現在のガイド地図の標準時間の合計が約14時間であるから、45年後の還暦を過ぎた体力からは想像すらできないスピードである。

今回の甲斐駒ヶ岳登山は、私にとって45年振りであった。白い巨岩に囲まれて休憩したわずかな記憶以外には何も残っていない。和田さんから、この厳冬期に甲斐駒ヶ岳か八ヶ岳のいずれかに登りませんかとの提案に、記憶の薄れた甲斐駒ヶ岳を選んだ。ルートは、山梨県側の竹宇駒ヶ岳神社から黒戸尾根を經由して山頂奥社にいたる高度差2200mの長大な尾根を辿る由緒正しい修験の道である。

年末年始から寒波の来襲で日本海側を中心に大雪による被害が続出していたので、雪が深い場合には途中でそのまま撤退することも覚悟して、西高東低が緩んだ頃合を狙って入山した。



写真1 中央高速道路八ヶ岳PAより黒戸尾根側の甲斐駒ヶ岳を望む

◎ **メンバー**： L青景平昌 (記録)、和田穰二

◎ **日程**：2011年2月5日(土)～2月6日(日)

2月5日；

横浜発⇒尾白溪谷駐車場⇒竹宇駒ヶ岳神社⇒七丈小屋(2400m)のテントサイト(泊)

2月6日；

テントサイト⇒甲斐駒ヶ岳頂上(2967m)⇒テントサイト(撤収)⇒竹宇駒ヶ岳神社⇒尾白溪谷駐車場⇒尾白の湯⇒横浜

2月5日(土)(晴):町田発(4:30)⇒(6:35)尾白溪谷駐車場(7:10)⇒竹宇駒ヶ岳神社
(7:20)⇒笹ノ平分岐点(10:00)⇒刃渡り(12:35)⇒刀利天狗(13:30)
⇒五合目小屋跡(15:00)⇒七丈第一小屋(17:00)⇒テントサイト(17:30)

町田で和田さんをピックアップして、一路、竹宇駒ヶ岳神社に向かう。道中、積雪の影響は全くなく、まるで秋山の風情である。夜明け前の薄暗いなか尾白溪谷駐車場に着いた。すでに3台ほどが駐車していた。われわれが身支度をしていると、その内の一台が準備を始めた。単独登山者であった。聞けば、昨年はこの駐車場にも雪が積もっていてラッセルに難渋して途中で撤退した由。今年は駐車場の周りにも雪がまったく見当たらない。しかし、高度を上げたところでラッセルを強いられると、一人では大変だと気にしていた。いざと言う時には、われわれも期待されているなど思った。いずれにせよ、快晴無風の好天である。

途中、駒ヶ岳神社に参拝し、吊り橋を渡っていよいよ黒戸尾根につく。溝状に窪んだ登山道には落葉が柔らかく詰まったままで、登山者の少ないルートだとわかる。和田を先頭に、落葉に足を入れてカサカサ歩く様はまるで秋山である。

笹ノ平の分岐点で、下山中の若者に会った。彼は七丈小屋に泊まって、今朝早く出発して駒ヶ岳登頂後下山してきた由。時間はまだ10時だというのに、その機動力には驚かされる。4本爪のアイゼンをつけていたが、雪は少ないとのこと。幸か不幸か、トレースは頂上まで続いていることがわかった。

笹ノ平の分岐点を回り込んで登ると、雪の部分が徐々に増えて、30分ほど行ったところでアイゼンが必要となった。「八丁登り」の途中である。荷を置いてアイゼンをつけていると、例の単独者ともう一人の単独者がそれぞれ我々を抜いていった。単独で冬山に向かう気概がある分、我々よりも元気がよい。

延々と樹林帯を辿るが、途中視界が開けた所が「刃渡り」である。名が示す通り両側が切れ落ちた痩せ尾根で、鎖場となっている。これを超えると刀利天狗までは、梯子と鎖が続く難所となっている。難所には石仏や石碑が立っている。その数だけ修験者が亡くなったのではない



写真2 落葉で埋まった登山道



写真3 刃渡り

かとは、和田さんの弁である。確かに、梯子や鎖がなければ命がけである。

刀利天狗から五合目小屋跡までは、黒戸山を巻く水平道となっており、やっと登りから開放される。後ろからの咳払いに振り向くと、いつの間にかアイゼンを付けずにキックステップで登ってきた外国人の登山者が居た。かれもまた単独で、爪先だけを斜面に立てながら走るように我々を抜き去っていった。何と元気なことよ。恐れいった。我々が遅すぎるのかも知れないが、マイペースを決め込む。

五合目小屋跡のコルでは、早くも下山してきた例の外国人が休憩していた。山岳マラソンの下見に登って来たようである。あのスピードには驚かされたが、冬山の登り方も色々だ。別れ際に、「梯子に気をつけて」といって下山していった。ここからは駒ヶ岳の八合目以上の岩稜が望め、黒戸尾根が覆いかぶさるようになっている。後で調べると、五合目小屋は2007年に解体撤去されたようである。

ここからの登りには、梯子と鎖が連続して現れてくる。黒戸尾根の特徴が最も現れる箇所なのだろう。背負った荷の重さも忘れて、難所を過ぎて回り込むと、突然七丈小屋が現れた。この小屋は通年営業しており、我々を追い抜いた単独の一人はすでに小屋に入って休んでいた。テントサイトの使用料は1人600円であった。この雪のなかでも徴収するのかと驚いたが、蓄えた水を自由に使ってよいとのこと。水筒に水を詰めて、さらに上部のテントサイトに向かう。

雪を被ったテントサイトには一張りだけテントがあった。我々を抜いて行った単独者のものである。テント設営が終わるころ、すでに日は落ち、眼下には中央線沿線の町の灯りが広がり、空一面には星が輝いていた。明日の天候は午前中まで好天が続くようであるが、午後には崩れるとの小屋番の話に3時に起床して頂上を目指すことにした。



写真4 五合目小屋跡コルの石仏・石碑と長い梯子

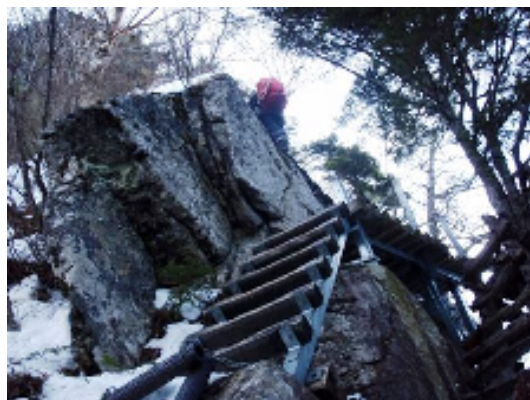


写真5 垂直な壁の梯子



写真6 七丈小屋

2月6日(日)(晴のち曇り):起床(3:00)⇒テントサイト発(5:10)⇒八合目御来迎場(6:40)⇒(8:45)甲斐駒ヶ岳頂上(8:50)⇒(11:00)テントサイト(12:00)⇒五合目小屋跡(13:20)⇒刀利天狗(14:45)⇒笹ノ平分岐点(16:10)⇒(18:25)尾白溪谷駐車場(18:50)⇒尾白の湯⇒(22:50)横浜

予定通り3時に起きたものの、外は真っ暗闇で地形もルートも正確に把握できないので、出発を5時に遅らした。出発する前に小屋泊りの単独者がテントサイトに上ってきたので、一緒に8合目の御来迎場を目指すことにした。東の空には明けの明星が大きく輝いていた。今日も快晴無風である。急な森林帯を直登し開けた雪面にでる頃には、リヒトは不要となった。東の秩父山脈の山際がピンクに染まり始める。ご来光に間に合わせようと八合目御来迎場に向けてアイゼンを効かす。八合目御来迎場には大き

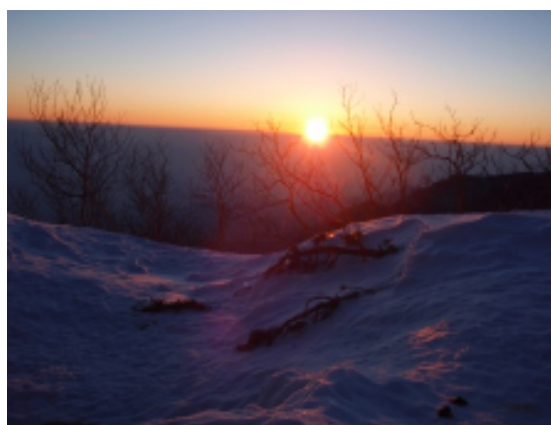


写真7 八合目御来迎場で迎える御来光

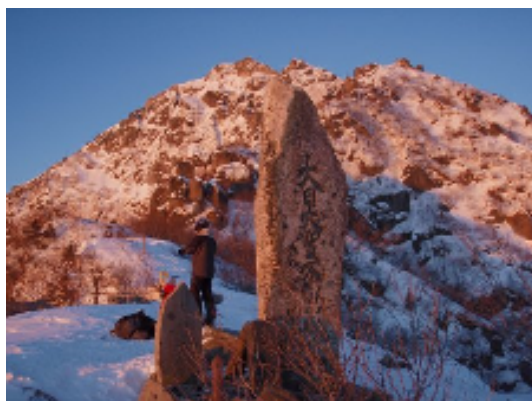


写真8 八合目御来迎場の石碑

な石碑が建っており、辿りつくると突然、東に富士山を背にした鳳凰三山、南に北岳が現れる。6時40分、ご来光に間に合った。ここから駒ヶ岳の頂上は見えないが、正面には9合目の刀剣を2本立てた特徴的な岩頭が見え、痩せた岩尾根が続いている。また、左側には、摩利支天の岩峰が赤く染まっている。ここからはトレースを辿って慎重に登ってゆく。9合目からの登りでは、祠のある頂上が右手に見え、先行した単独者がすでにそこに見えた。ここからはアイゼンの爪跡だけのトレースを辿る。駒津峰からの登山道の合流点までくると、今度は一気

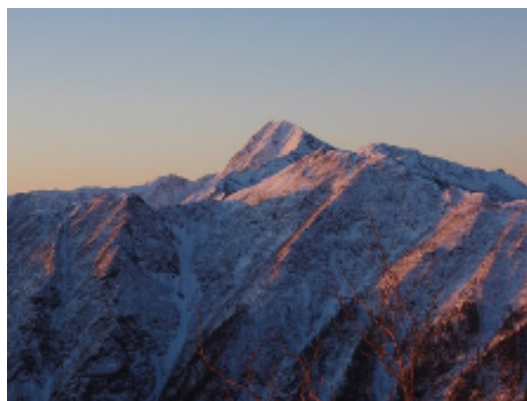


写真9 朝焼けに染まる北岳

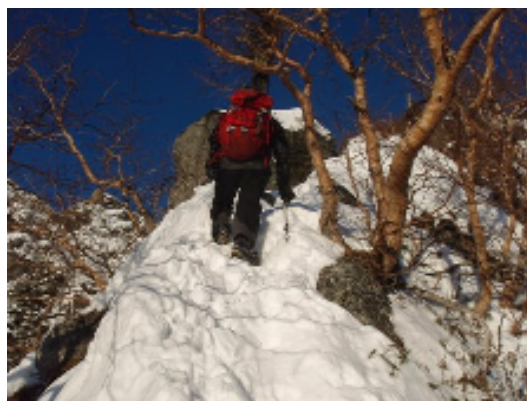


写真10 九合目に向かう痩せ尾根

に南側の展望が開け、白装束の仙丈岳のカールが目に飛び込んでくる。



写真 11 右手に甲斐駒ヶ岳の頂上を見ながらの最後の登り



写真 12 甲斐駒ヶ岳の頂上にて

駒ヶ岳の頂上は快晴無風で 360 度を展望できた。北には槍ヶ岳やキレットの形が特徴的な北アルプスが、南には北岳から塩見岳に連なる南アルプスが遠望できた。幸運にも天候に恵まれた 45 年振りの登頂である。

復路では、9 合目岩頭の直下にあるルンゼの下りで、久しぶりにザイルを使ってみることにした。このルンゼは大武川に落ち込んでおり、30m 程度下った途中で尾根に回りこんで逃げるルートとなっている。3 月になると

このルンゼの雪が氷結してザイルの使用が不可欠となるらしい。そのためか、ルンゼのトップには確保用のアンカーが打ち込んである。ザイル操作の訓練の結果は明白であった。もっと練習しておかないと実戦では役に立たない。

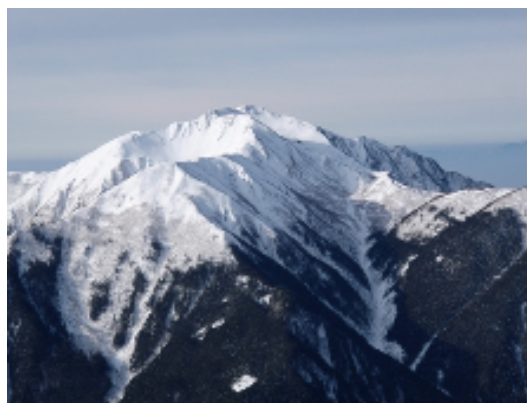


写真 13 仙丈岳を望む



写真 14 北岳、間ノ岳方面を望む



写真 15 頂上から望む富士山と鳳凰三山



写真 16 七丈小屋のテントサイト



写真 17 五合目小屋跡から八合目御来
迎場と九合目の岩頭を望む

11 時にテントサイトに着き、直ちにテント撤収作業に取り掛かった。午後から天候が崩れるとの予報であったため、急ぎ出発する。途中の梯子、鎖の難所は、登りで一回通過しているためか思いのほか順調に通過できた。笹ノ平分岐点を越えたところで、アイゼンを脱いだ。駐車場までもう少しと思いながら先を急ぐも、疲労のために休憩の回数が増えてくる。また、明るいうちには駐車場に到着できると思っていたが、最後の下り道の途中でリヒトが必要になってしまった。

吊り橋と駒ヶ岳神社を經由して、やっとの思いで真っ暗闇の駐車場に着いたのは 18 時 25 分であった。予定よりもかなり時間がかかってしまったが、無事に下山できたことに感謝である。駐車場近くの北杜市営の温泉「尾白の湯」に寄って、長く急峻な尾根の登山であったが、幸運にも厳冬期に 3000m 級の頂上に立てたことに満足しながら帰路についた。

以上